



**2012年 高等学校韓国語中国語教師研修  
2012年 外国語担当教員セミナー**

於：関西大学千里山キャンパス

**— 報告書 —**

2012年9月28日

主催：公益財団法人国際文化フォーラム（TjF）

共催：関西大学大学院外国語教育学研究科  
特別共催：駐日韓国大使館 韓国文化院、在日本中国大使館教育処  
駐日韓国文化院 世宗学堂

## 1. 事業名称

「2012 年高等学校韓国語中国語教師研修」

※8月3日と4日、5日の講座は、韓国語、中国語に限らず全ての外国語を担当する教師を対象とした「2012年外国語担当教員セミナー」として実施しました。

## 2. 事業実施にいたる背景

2009年3月、TJFは、『高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす(試行版)』の成果を踏まえ、新たに「学習のめやす」開発プロジェクトを立ち上げました。本研修は、「学習のめやす」開発プロジェクトと並行して実施され、研究開発の成果を現場教師にフィードバックする場であるとともに、現場教師から、課題や問題点についてフィードバックを受ける場と位置付け、毎夏実施してきました。本年度は、プロジェクトの成果として2012年3月に「外国語学習のめやす2012」(以下「めやす」とする)を発行したことを受け、4年間ではじめて、「めやす」に準拠した研修として実施されました。

## 3. 事業目的

外国語教育の目標設定・内容・方法に関する考え方や理論に対する理解を深め、学習者がコミュニケーション能力を獲得できるようにする授業について考えることを目指しました。また、高等学校の韓国語や中国語の実際の授業づくりにも取り組むことを通して、韓国語・中国語教師の実践的な授業デザイン力を養成することを事業の目的としました。

## 4. 事業概要

### ○期間および会場

期 間： 2012年8月3日(金)～8月7日(火)  
会 場： 関西大学千里山キャンパス(大阪府吹田市)

### ○実施機関

主 催： TJF  
共 催： 関西大学大学院外国語教育学研究科  
特別共催： 駐日韓国大使館 韓国文化院、駐日韓国文化院 世宗学堂  
在日本中国大使館教育処  
後 援： 文部科学省  
協 力： 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、高等学校中国語教育研究会

### ○講師(敬称略、五十音順、\*各言語のリーダー)

主任講師	當作靖彦	カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
韓国語担当講師	任喜久子	大阪府立花園高等学校教諭
	中川正臣	目白大学非常勤講師
	南潤珍*	東京外国語大学准教授
中国語担当講師	胡玉華	関西学院大学常勤講師
	植村麻紀子	神田外語大学専任講師
	山崎直樹*	関西大学教授

## ○参加者数（講師を除く）

韓国語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語教育関係者 計 97 名

## ○テーマ

学習者の人間的成長を促す外国語教育 -学習動機と学習効果を高める評価-

## 5. 研修の内容

今回は「学習者の人間的成長を促す外国語教育-学習動機と学習効果を高める評価-」をテーマに研修を実施しました。主任講師の當作康彦氏(カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)は、これまでの研修会で「よいテストは、よい学習者を作る、良いテストは、よい教師を作る」と繰り返し評価の重要性を指摘していました。参加者から研修で取り上げてほしいテーマとして最も多くの声があがったのも評価であり、教育現場から期待されていたテーマでした。

### ○8月3日(金)、4日(土)

前半 2 日間は、當作氏による講義が行われました。会場では、韓国語と中国語をはじめ、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語の教育に携わる先生方と共に、21 世紀の言語教育について考えました。

今年は、これまでのコミュニケーション能力が身につく外国語教育のあり方というテーマから一歩進んで、21 世紀のグローバル社会を生きぬく力を育む外国語教育のあり方というテーマで講義と議論が行われ、その中で、ポストコミュニカティブアプローチとしてのソーシャルネットワークングアプローチが提案されました。ソーシャルネットワークングアプローチとは、言語は社会活動を通して効率的、効果的に学ぶことができ、コミュニケーション能力は社会活動を通して効果的に獲得されるとする外国語教育の考え方です。これは、グローバル化の進展する社会に進んで参画できる市民の育成という現代社会の課題に応えるもので、外国語教育にとどまらず、教育全体への提言ともとれると教育関係者から評価されています。

### ○8月5日(日)

3 日目は、「めやす 2012」に基づいた評価をテーマに當作康彦氏による講義とワークショップが、5 日間でもっとも多くの参加者を集めて行われました。

まず、評価の基本概念についての講義があり、続いて採点・フィードバックの仕方や、効果的な評価についての説明がありました。その後、「めやす」が推奨する評価方法の一つであるルーブリックについての講義の中で、実際にルーブリックを作り、採点してみるというワークショップが行われました。ルーブリックとは、評価基準表のことで、縦軸に評価項目、横軸にその到達レベルを設定して、達成度を判断する基準を示すもので、基準の明確な、一貫した評価を可能にする評価ツールです。

はじめに、与えられたタスクの評価ルーブリックをペアになって作成しました。その後、隣のペアが作成したルーブリックと自分達が作成したルーブリックで、講師が用意した日本語学習者の作文サンプルを実際に評価してみました。その後、評価の結果にどのような違いがみられるかという活動を行いました。活動の中で現れた評価結果の違いは、学習のどの段階でどのような評価を行うか、評価の信頼性と妥当性はどうかなど、評価について実践的に考える機会となりました。

講義終了後、同キャンパス以文館食堂において、講師参加者交流会を開催しました。来賓に、駐大阪韓国総領事館韓国文化院の朴英恵院長のご臨席を賜り、盛会のうちに終了しました。

## ○8月6日(月)、7日(火)

後半 2 日間は、韓国語と中国語教師を対象を限定したグループワークを実施しました。韓中に分かれて行ったグループワークは、今年から講師、研修生ともにそれぞれの母語を使って進められたため、議論がより深まりました。

まず、4～5 人のグループに分かれて、実際に授業で行われた口頭発表の様子を撮影した映像を見て、講師が用意したルーブリックを使って採点し、ディスカッションするという活動を行いました。続いて、TJF のウェブサイト(実践サポートめやす WEB)に既に掲載されている学習シナリオをもとにした形成的評価と総括的評価のサンプルをもとにディスカッションを行いました。最後に、講師が用意した学習シナリオをもとに、形成的評価と総括的評価の活動とその活動を評価するためのルーブリックを協働して作成し、ポスター形式で発表しました。例年同様、ポスターへの質問や意見は、ポストイットにコメントを記入し、壁に貼り付けるかたちで作成者にフィードバックされ、それをもとに各グループの振り返りのディスカッションが行われました。最後に 5 日間を振り返る當作先生の総括と、4 年にわたって毎夏行われた本研修の皆勤賞(3 名)の表彰式を行い、5 日間の研修の幕を閉じました。

## 6. 事業の成果

本年度の研修会において、以下の成果が得られました。

### 1. 「めやす」についての理解が深まった。

研修生には事前に「めやす」を配布し、内容を読んでもらったうえで講義に臨んでもらったので、「めやす」の提案に対する理解は、深まっています。そのことは、アンケートの「「外国語学習のめやす 2012」について理解できた。」という問いに、「いいえ」または、「いいえ」に近い答えを選んだものが、1 人もないという結果からも明らかです。

\*【参考】アンケート結果を参照

### 2. 大阪の初開催で新しい受講者が多く得られた。

97 名中、本研修に初めて参加するのは 52 名で、うち、32 名が西日本在住者でした。

### 3. 実践に結びつく研修会とすることができた。

アンケートの「今回とりあげた評価の手法について取り入れてみようと思うか」という問いに、「2 学期からすぐに!」、「ぜひ、取り入れてものにしたい!」といった声が寄せられるなど、実践的な研修であったという評価をいただくことができました。

2009 年から 4 年間実施した本研修の成果は、以下の 4 点です。

### 1. 新しい外国語教育の意義の共有

外国語教育が 21 世紀を生きる子どもたちの人間形成のための総合的な能力を育成する教育の中核をになう科目だということが担当する言語を越えて共有できました。

### 2. 新しい外国語教育の考え方(ソーシャルネットワークングアプローチ)の共有

言語やコミュニケーション能力は、社会活動を通して効果的に獲得されるという考え(ソーシャルネットワークングアプローチ)を理解し、言語教育に新たな領域(言語、文化、グローバル社会)と能力(知識理解、技能運用、関係構築)、そして連携(学習者の関心・意欲・態度、他教科の学習内容や既習内容、教室外の人・モノ・情報)が必要だということを共有しました。

### 3. 新しい外国語教育の実践的な内容と方法を提案

1. 2. を念頭に置いた授業づくりを実現するカリキュラムデザインの考え方、評価の方法、授業設計や効果的な教室活動の実践的な方法を提案しました。

### 4. 教師の協働力の養成と、言語横断的な教師ネットワークの形成

言語横断的な教師ネットワークを形成するとともに、共同生活やグループワークなどでの協働力を体験することを通して、その重要性を共有しました。

## 7. 今後の課題

本研修は、4年間で、279名(中国語:115名、韓国語:73名、英語、40名、日本語:40名、ドイツ語:5名、フランス語4名、スペイン語:2名)の参加者を得て実施しましたが、「めやす」の提案を日本の外国語教育の現場の理解を得るためには、更なる研修やワークショップなどの機会が必要だと考えています。今後は、東京、大阪以外の地域での開催や、1日から2日程度の参加しやすいプログラムを提供するなど、「めやす」の提案をより多くの外国語教師と共有し、実践に結びつけることをめざしたいと考えています。また、研修参加の動機を高めるための工夫についても検討していきたいと思っています。

### 【参考】 アンケート結果

アンケートは、2012年高等学校韓国語中国語教師研修および外国語担当教員セミナーの参加者96名に配布し、59名から回答を得た。

□研修・セミナーの内容について	はい	—	—	—	いいえ	無
1)「外国語学習のめやす 2012」について理解できた。	24	<b>25</b>	9	0	0	1
2)形成的評価・総括的評価について理解できた。	23	<b>27</b>	8	1	0	1
3)ルーブリックについて理解できた。	26	<b>29</b>	2	1	0	1
4)自分の担当する授業で形成的評価と総括的評価を取り入れてみようと思う。	<b>30</b>	24	2	3	0	0
5)自分の担当する授業でルーブリックを評価に活用してみようと思う。	<b>34</b>	21	2	2	0	0

□今後研修で取り上げてほしいテーマ、また、過去に受講したことのある内容だけれど、もう一度受講したいと思うテーマ

1)「外国語学習のめやす 2012」に基づいた授業設計	<b>36</b>
2) ICT の活用	<b>33</b>
3) テキストブックアダプテーション	<b>26</b>
4) バックワードデザイン	<b>19</b>
5) 評価	<b>17</b>
6) その他	<b>6</b>

※単元案と評価のポスターセッション、文化のリテラシーに対する評価、ポートフォリオ、教材研究、リテラシー、模擬授業

□研修の開催・協力などについて	はい	—	—	—	いいえ	無
1)「めやす」の研修を、TJFの協力を得て、地元で開催してみたい。	7	6	<b>10</b>	4	10	12
2)「めやす」の研修にコーディネーターとして協力してみたい。	6	8	<b>14</b>	9	13	9
3)これまで研修でとりあげた内容ほかをまとめた冊子が作成されたら購入したい。	<b>38</b>	13	6	1	0	1

## ■日程表

	8月3日(金)	8月4日(土)	8月5日(日)
1時限 9:00 - 10:30	開会式 言語教育の目標とは何か 【E402】	言語教育における文化の教育 【E402】	言語教育における評価の役割 【E402】
2時限 10:45 - 12:15	新しい言語能力はどのように身につくのか 【E402】	言語教育におけるグローバル社会能力の教育 【E402】	評価のリテラシー、評価の基本概念 【E402】
昼食			
3時限 13:30 - 15:00	言語のクラスの目標設定から活動・評価まで 【E402】	学習者中心の言語教育 【E402】	評価ガイドの役割 【E402】
4時限 15:15 - 16:45	語彙・文法の効果的な教室活動 【E402】	21世紀の言語教育と教師 質疑応答 【E402】	ルーブリックを使った評価 【E402】
17:00 - 18:30			講師参加者交流会 【以文館1F 食堂】

【 】:教室

	8月6日(月)	8月7日(火)
1時限 9:00 - 10:30	「外国語学習のめやす」の目標、総括的評価と形成的評価、効果的なルーブリック、学習シナリオ(全体ディスカッション) 【E402】	質疑応答 (全体ディスカッション) 【E402】  評価開発活動(グループワーク) 【中国 E209、韓国 E206】
2時限 10:45 - 12:15	口頭による提示的コミュニケーションの評価ルーブリック (グループワーク) 【中国 E209、韓国 E206】	ポスター発表準備 【中国 E204、韓国 E205】
昼食		
3時限 13:30 - 15:00	グループ活動課題提示、サンプル提示、評価開発活動 (グループワーク) 【中国 E209、韓国 E206】	ポスター発表 【中国 E204、韓国 E205】
4時限 15:15 - 16:45	評価開発活動(グループワーク) 【中国 E203、韓国 E206】	講評、全体ディスカッション、ふりかえり、終了式 【E402】

【 】:教室

## 研修のひとこま

今年の研修会は、この4年間でもっともインタラクティブで、実践的な研修会となりました。

### 8月3日～5日 講義、ワークショップ



研修生は當作先生の話に引き込まれていました。



研修生間のディスカッションが活発に行われました。



ペアワークでさらに具体的に考えさせられました



講師と研修生が一体となって課題を検討しました

### 8月5日 交流会



担当する言語を越えた交流がありました



今年は、例年以上の一体感でした！！



## 8月6日～7日 グループワーク・ポスター発表



講師も研修生も母語で活動しました



講師と研修生が協力して活動しました



国内外から先生が集まりました



すばらしい成果物ができました！



毎年恒例のポスター発表



他のグループの活動は参考になりました



## 8月7日 振り返り・皆勤賞授与式



忘れられない講義になりました！



4年間の研修で3名の先生が皆勤賞でした！  
ありがとうございました！



**TJF**

**2012**